



## 今後に災害に備え 震源地近くの追手門学院大学 2018年6月発生大阪府北部地震の記録を発刊

政府の地震調査委員会が「今後30年以内の発生確率が70%から80%」と予測する南海トラフ巨大地震等の災害に備え、追手門学院大学(大阪府茨木市、学長：川原俊明)は、昨年6月に発生した大阪府北部地震への対応や被害をまとめた冊子を発行しました。

追手門学院大学は、昨年6月18日7時58分頃に発生した大阪府北部地震の震源地近くに位置し、地震当日、震度6弱の激しい揺れに見舞われました。大学、隣接する追手門学院中・高等学校ともに校舎が倒壊するといった被害はありませんでしたが、書架を設置している教員個人の研究室や図書館で被害が目立ちました。

地震に備えて固定していた書架そのものが床に転倒したり、書架の本が床に散乱したりしたほか、50年前の創立期からある4階建の図書館は、3・4階部分の外壁が壊れました。

地震が発生した時刻は通学・通勤時間帯にあたり、すでに出勤していた教職員らを中心に100人体制で安否確認をはじめ、学生・生徒らの帰宅支援、被害状況の確認、復旧に向けた対応を行いました。

このほど発行した冊子『大阪府北部地震の記録』は、A4版68ページの冊子で、「地震当日の対応」、「地震体験記」、「地震対応記録」、「被災記録写真」の4つのパートで構成しています。このうち「地震当日の対応」では、発生直後の避難の状況から休講の決定、学生の帰宅支援、被害状況の確認まで対応状況を時系列でまとめています。

また、「地震体験記」には教員4人、職員7人、学生1人がそれぞれ投稿しています。自宅や大学内での被災時の状況やその後の行動を振り返り、毎年実施している避難訓練の重要性を改めて認識したとの感想も寄せられています。

本冊子は600部発行し、全教職員をはじめ関係機関に配付して今後の災害への備えに活用していきます。

### 【ポイント】

- 南海トラフ巨大地震等、今後の災害に備え2018年6月18日の大阪府北部地震の記録を発行
- 「地震当日の対応」、「地震体験記」、「地震対応記録」、「被災記録写真」で構成
- 600部を発行し、全教職員に配付するほか関係機関にも配付。



地震直後の教員個人研究室



図書館の復旧作業の様子